



平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月9日

上場取引所 東

上場会社名 ソマル株式会社

コード番号 8152 URL <http://www.somar.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 曾谷 太

問合せ先責任者 (役職名) F&A部長

(氏名) 今井原 俊彦

TEL 03-3542-2152

四半期報告書提出予定日 平成25年8月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	5,618	△8.5	△241	—	△207	—	△50	—
25年3月期第1四半期	6,141	2.3	△176	—	△170	—	△232	—

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 415百万円 (—%) 25年3月期第1四半期 △103百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	△2.62	—
25年3月期第1四半期	△11.98	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第1四半期	25,417	13,387	52.7
25年3月期	24,788	13,069	52.7

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 13,387百万円 25年3月期 13,069百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	5.00	—	5.00	10.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	11,500	△5.6	△510	—	△330	—	△370	—	△19.03
通期	25,000	9.0	△550	—	△260	—	△370	—	△19.03

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期1Q	19,587,349 株	25年3月期	19,587,349 株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	144,558 株	25年3月期	141,434 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期1Q	19,444,079 株	25年3月期1Q	19,447,946 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(追加情報)	8
(四半期連結損益計算書関係)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、いわゆるアベノミクスで代表される政府の経済対策への期待感などから前年末より株高基調へと転じるなど、景気回復への明るい兆しが見え始めましたが、一方では、中国における経済成長率の減速や円安による輸入品価格の上昇など、国内景気の下押し圧力もあって、景気の先行き不透明感が依然として残る状況が続きました。

こうした状況下、当社グループは引き続きスピーディな経営判断に心がけ、国内の顧客はもとより、新興するアジア地域を主体としたグローバルな顧客に対する情報収集と積極的な販売活動を展開すると共に、グループ全体での生産の効率化や新規製品の開発にも努めてまいりましたが、前年同四半期におけるスマートフォン関連など一部の旺盛な需要から当期は反動減して、売上は減少しました。

その結果、当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高が56億1千8百万円（前年同四半期比8.5%減）となりました。利益面では、製造子会社ソマテック株式会社の初期投資の負担が残ることもあって、営業損失が2億4千1百万円（前年同四半期は営業損失1億7千6百万円）、経常損失が2億7百万円（前年同四半期は経常損失1億7千万円）となり、またソマテック株式会社の工場用地取得助成金2億円の交付を宮城県大和町から受けた収入を、当第1四半期に特別利益に計上したこともあって、四半期純損失が5千万円（前年同四半期は四半期純損失2億3千2百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

〔高機能材料事業〕

高機能材料事業は、自動車部品業界が比較的堅調に推移したことで関連する高機能樹脂製品の販売は増加しましたが、電子部品業界向け需要は特にスマートフォン向け需要が前年同四半期の旺盛な需要から反動減して販売がかなり落ち込みました。その結果、当事業全体の売上高は38億3千8百万円（前年同四半期比11.6%減）、営業損失が1億9千6百万円（前年同四半期は営業損失1億5千4百万円）となりました。

(主な製商品群の概況)

製商品群	概況（数値は前年同四半期との対比）
コーティング製品	スマートフォン等の関連需要が前年度後半から大きく落込み、徐々に回復しつつあるものの前年度前半レベルには至らず、30.7%の減収となりました。
高機能樹脂製品	特に自動車部品業界向け需要が震災等による落込みから回復し、海外生産拠点からの顧客への製品供給体制も整備が進んで、7.8%の増収となりました。
電子材料	回路形成材料は業容を拡大したことで増加しましたが、スマートフォン等電子機器や重電向けの需要が低調に推移し、14.3%の減収となりました。
機能性樹脂	プリント基板や家電製品関連の樹脂需要が、エコポイント制度の打ち切りや震災以降の消費マインド停滞で需要が回復せず、7.8%の減収となりました。

〔環境材料事業〕

環境材料事業は、主要顧客の製紙業界で震災からの復旧・復興が進み需要の一部持ち直しもでてはきましたが、全体的には紙の国内需要が漸減傾向を続けているため、当社製商品に対する需要も低迷しました。そうした中で、当社製商品の拡販や特長あるファインケミカルズ製品の用途開拓にも引き続き努めてまいりました。その結果、当事業全体の売上高は14億6千2百万円（前年同四半期比6.2%増）、営業利益は8百万円（前年同四半期は営業損失7百万円）となりました。

(主な製商品群の概況)

製商品群	概況（数値は前年同四半期との対比）
ファインケミカルズ	製紙各社の需要が低迷した中で、当社独自の製紙ケミカルズ製品の拡販と用途開拓が進んだ効果により、14.2%の増収となりました。
製紙用化学品	石油ナフサ価格の上昇に伴う紙塗工用バインダーの販売価格の値上げに努めたことや、新たな拡販の成果も加わって、4.0%の増収となりました。

[その他の事業]

その他の事業の主体をなす食品業界向けの食品材料は、全体的な需要が依然として低迷する中、顧客ニーズに応えるサービスの提供と拡販に努め、更には、新たな商材の育成にも努めてまいりました。当四半期では、前年度前半に見られた天然増粘安定剤の供給タイトな状況が、その後徐々に解消して平常化してきたことから、増粘安定剤の販売価格が前年高騰したレベルからは反動的に大きく値下がりしたため、増粘安定剤の売上が大きく減少しました。また一方では、保存食品向けの食品材料の販売は拡販の成果もあって比較的堅調に推移し、更に、新たな商材の販売も徐々に実績につながってきました。その結果、当事業全体の売上高は3億1千8百万円（前年同四半期比24.5%減）、営業利益は3千5百万円（前年同四半期比39.8%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は146億8千5百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億9千9百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金が1億2百万円減少したものの、受取手形及び売掛金が3億2千3百万円、たな卸資産が2億円それぞれ増加したことによるものであります。固定資産は107億3千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億2千9百万円増加いたしました。これは主に投資有価証券が1億4千6百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、254億1千7百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億2千8百万円増加いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は50億3千7百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億6千7百万円増加いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が1億2千7百万円増加したことによるものであります。固定負債は69億9千2百万円となり、前連結会計年度末に比べ4千3百万円増加いたしました。

この結果、負債合計は、120億2千9百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億1千万円増加いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は133億8千7百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億1千7百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が1億4千8百万円（5千万円の四半期純損失の計上、9千7百万円の剰余金の配当による減少）減少したものの、為替換算調整勘定が3億7千万円、その他有価証券評価差額金が9千4百万円それぞれ増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は52.7%（前連結会計年度末は52.7%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年5月15日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,021,105	4,918,991
受取手形及び売掛金	6,616,296	6,940,083
電子記録債権	164,625	226,455
たな卸資産	2,062,332	2,263,204
その他	321,863	338,466
貸倒引当金	△70	△1,890
流動資産合計	14,186,153	14,685,311
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,696,235	3,667,843
機械装置及び運搬具(純額)	1,873,859	1,819,467
土地	1,796,087	1,818,464
建設仮勘定	28,396	82,372
その他(純額)	113,607	106,686
有形固定資産合計	7,508,186	7,494,834
無形固定資産	213,574	207,148
投資その他の資産		
投資有価証券	1,476,697	1,622,772
その他	1,886,077	1,889,390
貸倒引当金	△482,425	△482,355
投資その他の資産合計	2,880,349	3,029,807
固定資産合計	10,602,111	10,731,790
資産合計	24,788,264	25,417,101
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,588,908	3,716,357
短期借入金	400,000	400,000
未払法人税等	54,190	12,103
賞与引当金	137,367	71,042
その他	588,919	837,583
流動負債合計	4,769,387	5,037,087
固定負債		
長期借入金	6,600,000	6,600,000
退職給付引当金	153,832	143,036
役員退職慰労引当金	51,897	—
資産除去債務	67,876	68,029
その他	75,719	181,511
固定負債合計	6,949,325	6,992,577
負債合計	11,718,712	12,029,665

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,115,224	5,115,224
資本剰余金	4,886,268	4,886,268
利益剰余金	3,041,601	2,893,408
自己株式	△46,122	△46,750
株主資本合計	12,996,971	12,848,151
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	122,270	216,778
繰延ヘッジ損益	4,052	5,790
為替換算調整勘定	△53,743	316,716
その他の包括利益累計額合計	72,580	539,285
純資産合計	13,069,552	13,387,436
負債純資産合計	24,788,264	25,417,101

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	6,141,899	5,618,819
売上原価	5,398,301	5,100,205
売上総利益	743,597	518,614
販売費及び一般管理費	920,227	760,515
営業損失(△)	△176,630	△241,900
営業外収益		
受取利息	3,486	2,719
受取配当金	14,527	14,601
為替差益	4,296	32,049
その他	2,523	2,833
営業外収益合計	24,834	52,204
営業外費用		
支払利息	14,562	14,863
債権売却損	1,269	1,332
その他	3,141	1,280
営業外費用合計	18,973	17,477
経常損失(△)	△170,768	△207,173
特別利益		
補助金等収入	—	※ 200,000
特別利益合計	—	200,000
特別損失		
固定資産除却損	149	—
投資有価証券評価損	60,246	—
特別損失合計	60,395	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△231,164	△7,173
法人税、住民税及び事業税	4,083	6,274
法人税等調整額	△2,319	37,514
法人税等合計	1,764	43,789
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△232,929	△50,962
四半期純損失(△)	△232,929	△50,962

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△232,929	△50,962
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△79,597	94,507
繰延ヘッジ損益	△9,587	1,737
為替換算調整勘定	218,138	370,459
その他の包括利益合計	128,953	466,704
四半期包括利益	△103,975	415,742
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△103,975	415,742
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
(役員退職慰労引当金) 当社は、従来、役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しておりましたが、平成25年6月27日開催の定時株主総会において、役員退職慰労金制度を廃止し、同総会終結の時までの在任期間を対象として、当社所定の基準による相当額の範囲内で打切り支給することとし、その支給の時期については各役員の退任時とすることが決議されました。これにより、役員退職慰労引当金を全額取崩し、打切り支給額の54,547千円を「固定負債」の「その他」に含めて表示しております。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 当社の連結子会社であるソマテック株式会社が、宮城県大和町に建設した工場に対する補助金等収入であり、内訳は次のとおりであります。

自治体	補助金等名称	金額
宮城県大和町	用地取得補助金	200,000千円

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	高機能材料 事業	環境材料 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,343,183	1,377,589	5,720,773	421,126	6,141,899
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,343,183	1,377,589	5,720,773	421,126	6,141,899
セグメント利益又は損失(△)	△154,372	△7,256	△161,629	59,289	△102,340

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品関連素材の輸入販売等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	△161,629
「その他」の区分の利益	59,289
全社費用（注）	△74,289
四半期連結損益計算書の営業損失（△）	△176,630

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

II 当第1四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	高機能材料 事業	環境材料 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,838,018	1,462,736	5,300,755	318,064	5,618,819
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,838,018	1,462,736	5,300,755	318,064	5,618,819
セグメント利益又は損失（△）	△196,585	8,109	△188,476	35,715	△152,761

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品関連素材の輸入販売等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	△188,476
「その他」の区分の利益	35,715
全社費用（注）	△89,139
四半期連結損益計算書の営業損失（△）	△241,900

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。